

都市再生整備計画

しんとつかわちょうちゅうしんしがいちちく
新十津川町中心市街地地区

第2回変更

北海道 新十津川町

令和5年3月

事業名	確認
都市構造再編集支援事業	<input type="checkbox"/>
都市再生整備計画事業	<input checked="" type="checkbox"/>
まちなかウォーカーブル推進事業	<input type="checkbox"/>

目標及び計画期間

様式(1)- ②

都道府県名	北海道	市町村名	新十津川町	地区名	新十津川町中心市街地地区	面積	24 ha
計画期間	令和 3 年度 ~ 令和 5 年度	交付期間	令和 3 年度 ~ 令和 5 年度				

目標

- 大目標: みんなでつくる自然豊かで住みよいまちづくり
 目標1: JR新十津川駅で分断されていた市街地の交通アクセス網の充実(生活環境の改善)
 目標2: 世代を超えた地域住民が集う、憩いの空間の創出(地域コミュニティの再生)
 目標3: 町内への定住促進の受け皿となる住みやすい住宅地を提供(人口減少の緩和)

目標設定の根拠

まちづくりの経緯及び現況

- 本町は、空知管内の中心部、石狩川の右岸に位置し、奈良県十津川郷における未曾有の大水害の被災を契機として、600戸2489人が明治23年に集団移住して開村した類まれな歴史を持つまちである。その後、稲作を中心に発展して明治40年には一級町村新十津川村となり、人口も大正9年には15,306人となった。
- 市街地の形成は昭和10年の国鉄札沼線全線開通後に本格化し、新十津川駅付近に中心市街地が形成された。戦後、昭和32年に町制が敷かれ、人口は昭和30年の16,199人をピークにその後減少に転じたが、農村部からの移住や核家族化などで宅地需要が高まり、昭和40年過ぎから民間事業者や土地開発公社による定住促進政策が好調のため年々転入者が増えてきている。
- 計画中心部にあるJR札沼線が令和2年5月7日、88年の歴史をもって廃線となり、新十津川駅周辺の再整備が必要となってきた。このことから、令和元年度に新十津川駅跡地活用基本構想・基本計画をまとめるため、周辺住民関係者・駅関係団体・商工観光関係団体からなる跡地活用検討会を開催し、跡地の現況課題・将来像について議論を重ねた。

課題

- 対象市街地は、JR新十津川駅及び周辺鉄道林により東西が分断されており、暮らしやすい生活環境の向上が必要である。
- JR廃線前に全国からの多くの来訪者があったが、新十津川駅が廃止となったあと世代を超えた地域住民が集え、憩える空間を創出し、賑わいを取り戻す。
- 町の定住促進政策が好調のため、年々転入者が増えてきており、優良な住宅地が不足傾向にある。

将来ビジョン(中長期)

- 第6次総合計画(令和4年度~令和13年度)
 豊かな「自然」あふれる「笑顔」みんなで「創る」いきいき「未来」をキャッチフレーズに住民と行政がともに手を取り合いながら、誰もが住み続けたいと思えるまちを築くため、①住みやすい暮らしがある、②笑顔がつづく暮らしがある、③活気あふれる産業がある、④心やすらぐ備えがある、⑤未来を叶える学びがある、助け合う絆がある、の6つをまちづくりの目標と設定し、様々な政策事業を展開することで、将来目標人口6,520人を目指す。
- 新十津川町人口ビジョン・総合戦略(平成27年度)
 新十津川町人口ビジョンでは、将来人口を令和22年度5,377人、計画最終年の令和42年度には4,630人と想定し、計画実現のための基本目標として、「安定した雇用創出プロジェクト」「人を引き寄せる魅力創生プロジェクト」「子育てしたい希望実現プロジェクト」「時代にあった地域確立プロジェクト」を掲げ、総合戦略による具体的な施策を定め急激な人口減少の緩和を目指す。
- 新十津川町都市計画マスタープラン(平成14年度~)
 新十津川町の将来都市像を「郷土愛を胸に安心して住みよい未来を築くまち」とし、「緑と文化の薫るふれあいのまち 新十津川」をサブテーマに定めている。基本目標として、「豊かな自然環境と調和した活力あふれるまちづくり」では、自然環境に優しい企業誘致を推進し、雇用の確保と市街地の活性化を図る。「町民がふれあう優しいまちづくり」では、市街地内の既存施設を有効活用し、地域コミュニティの活性化を図る。「安心・快適でわかりやすい生活環境を築くまちづくり」では、公共公益施設を効率的に配置し、快適に移動できるような歩行者空間を整備したコンパクトな市街地形成を目指す。

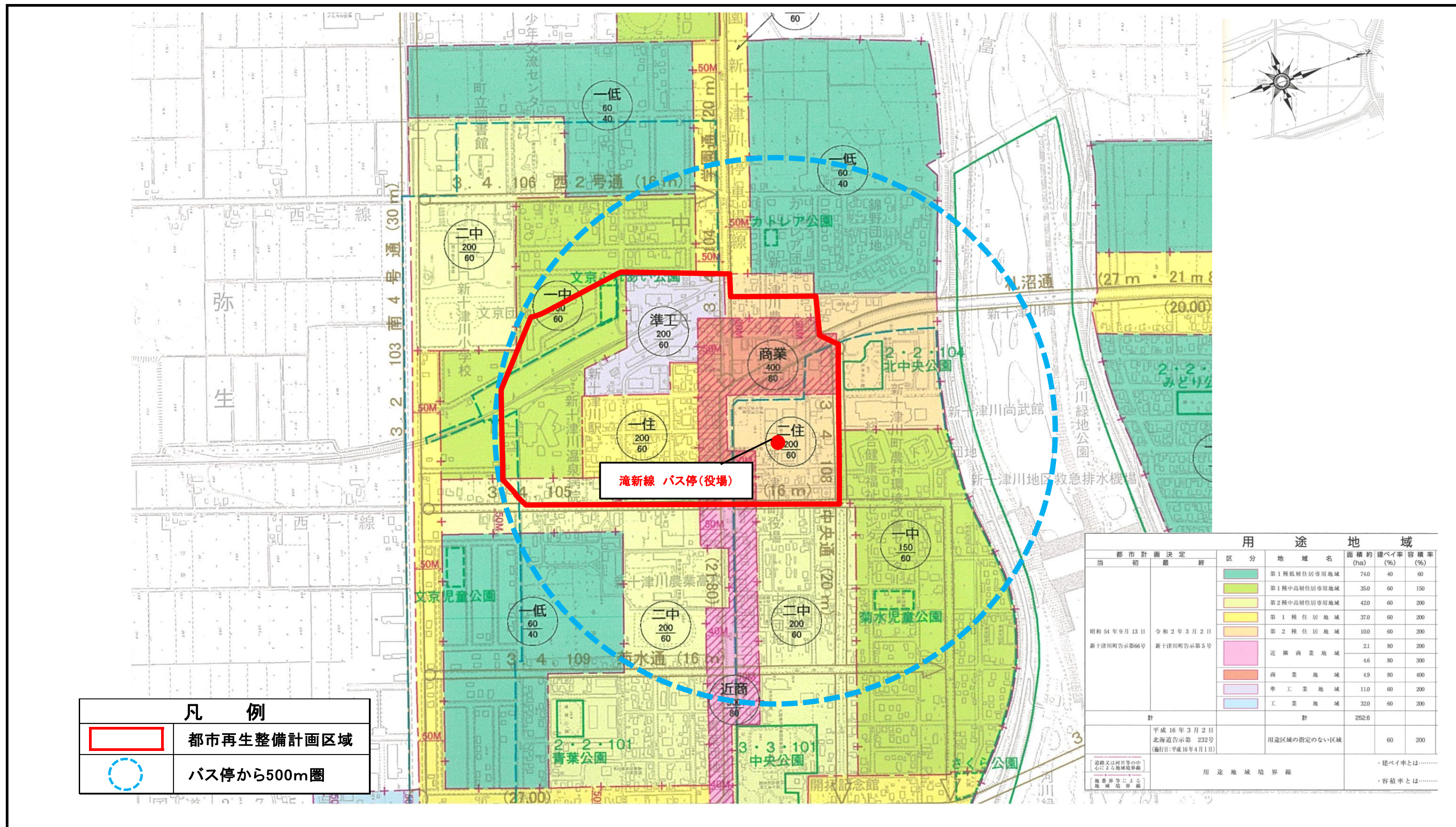
目標を定量化する指標



指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	目標値
				基準年度	目標年度
道路環境の整備の満足度	%	道路交通に関する住民満足度の向上	事業実施前後で満足度が向上したか、目標1を達成する指標	60.0	66.0
公園・緑地の整備の満足度	%	公園・緑地に関する住民満足度の向上	事業実施前後で満足度が向上したか、目標2を達成する指標	61.0	67.1
新十津川町文京区内人口	人	定住促進政策を進めた中で、生活環境の整備により、新十津川町文京区の人口を増加させる。	事業実施後に新十津川町文京区の人口が増加したか、目標3を達成する指標	101	121

整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>整備方針1: 生活環境等の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・JR新十津川駅で分断されていた市街地の交通アクセス網の充実 	<p>道路: 町道文京3号通り(基幹事業) 道路: 町道文京2条中通り(基幹事業) 道路: 町道文京1条通り(基幹事業)</p>
<p>整備方針2: 地域コミュニティの再生</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世代を越えた地域住民が安心して散策できる歩行空間と楽しく集える芝生広場を中心に、鉄道施設の名残ある公園の整備を行う。 ・地域コミュニティの再構築のため、高齢者世代と子育て世代などが相互に支え合う地域活動として展開する。 	<p>公園: 駅跡公園(仮称)(基幹事業)</p>
<p>整備方針3: 人口減少の緩和</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子育て世代の転入者の受け皿となる生活環境が整った宅地の整備を図る。 	<p>下水道: 公共下水道整備事業(基幹事業) 上水道: 上水道整備事業(関連事業) 宅地: 住宅地造成(関連事業) 定住促進事業(関連事業)</p>
<p>その他</p>	
<p>【まちづくりの住民参加】</p> <p>JR札沼線の廃線を表明する以前から、民間の駅支援団体である「新十津川駅を勝手に守る会」による駅や周辺清掃や修繕など駅周辺の環境整備を行い、来訪者を出迎えていた。また、駅に隣接する「空知中央病院」の職員有志により、駅周辺の町有地に草花を植え、環境整備を担っていただいている。さらに、病院に併設された保育所の園児たちが、列車で来町した乗客に対し、新十津川音頭を踊って出迎えるなど、周辺の関係者や有志による駅を盛り上げる取り組みを行っていた。</p> <p>JR札沼線廃線によって不用となる跡地の活用方法について、地域住民、前述の病院関係者、同じく駅支援団体、産業団体、商工観光団体などで構成された「新十津川駅跡地活用検討会」で、課題の抽出、将来像などが議論され、駅跡地が世代を越えた地域住民が集える公園整備を行うということに結びついた。</p> <p>【定住促進事業】</p> <p>本町における住宅の建築又は取得を奨励し、本町への定住を促進することにより、人口減少の抑制を図り、地域の活性化及び住民生活の向上を推進する。</p>	

新十津川町中心市街地地区(北海道新十津川町)	面積 24 ha	区域 新十津川町字中央18、20、21、22番地の一部
------------------------	-------------	--------------------------------



凡 例	
	都市再生整備計画区域
	バス停から500m圏

都市計画決定		用 途 地 域				
当 初	最 終	区 分	地 域 名	面積約 (ha)	建ぺい率 (%)	容積率 (%)
昭和54年9月13日 新十津川町告示第66号	令和2年3月2日 新十津川町告示第5号		第1種低層住居専用地域	74.0	40	60
			第1種中高層住居専用地域	35.0	60	150
			第2種中高層住居専用地域	42.0	60	200
			第1種住居地域	37.0	60	200
			第2種住居地域	10.0	60	200
			近隣商業地域	2.1	80	200
				4.6	80	300
			商業地域	4.9	80	400
			準工業地域	11.0	60	200
			工業地域	32.0	60	200
計			計	252.6		
	平成16年3月2日 北海道告示第232号 (施行日:平成16年4月1日)		用途区域の指定のない区域	6.0		200

道路又は河川等の中心による地域境界線
地番界等による地域境界線

・建ぺい率は……
・容積率は……